柏崎市長賞

『税率ではない大切なこと』

柏崎市立鏡が沖中学校　三年　藤野　絢香

北欧の国々は、世界幸福度ランキングで例年上位に位置している。また、その中でもフィンランドは九年連続世界一位だ。しかし、日本は二〇二六年時点で六十一位だ。なぜフィンランドを含め北欧はここまで幸福度が高いのだろうか。また、日本との差はどこで生まれているのだろうかと疑問に思い、詳しく調べてみることにした。

調べてみると、フィンランドの幸福度の高さには社会保障の充実さが要因であることがわかった。社会保障はさまざまな場面で私たちに還元されている。さらに調べるとフィンランドでは、社会保障に必要な財源のうち約六割が税金でまかなわれていることがわかった。しかし、日本では社会保障の財源のうち約四割が税金と、フィンランドよりも割合が低い。

「税金」と一言で言っても、細かく見ていくと、さまざまな種類がある。税金と聞いて一番に頭に思い浮かぶのは消費税だろう。現在、日本の消費税率は十パーセントだ。それに比べてフィンランドの消費税率は二十五・五パーセントと非常に高く、驚いた。さらに、フィンランドは所得税や住民税などのさまざまな税も日本より高いことがわかった。このように、フィンランドでは日本より税負担が大きく、その税金が社会保障の充実さを支えていることがわかる。これらの情報をもとに私は、税率が高いと社会保障も充実し、国民の幸福度へもつながるのではないかと考えた。しかし、そうではないことが調べていくうちにわかった。幸福度の低い国には、税金の使い道が不透明だったり、行政サービスがあまり還元されていないと国民が感じたりしている傾向があるという。それに比べ幸福度の高い北欧の国々は、集められた税金の使い道の納得度や満足度が高いといわれている。実際に税を納めるのは国民であり、それによって影響を受けるのも国民だ。だから私は、幸福度を左右する要因は、税率の高さではなく、税金が適切に使われ、その使われ方に対する国民の納得感や信頼度の高さなのではないかと考えた。

選挙では「消費税率を引き下げます」という公約をよく目にする。しかし、税率を下げてしまうとその分、公共サービスが維持できなくなったり、失われてしまう可能性がある。私たちが注目すべきところは、税率の高さではないと思う。大切なのは、集められた税金が、国民を支えるために適切に使われ、その使い道に国民が賛成、満足しているかどうかだ。将来納税者になる一人として、税の仕組みや使われ方に関心をもち、正しい理解をすることが必要だと考える。そして一人一人が税について身近な問題だと認識し、考えていくことで、より良い社会をつくっていくことができると思う。